

じゃんぷ!

『へんしんトンネル』の劇ごっこが始まり、子供たちは好きな動物になりきることや、友達との言葉のやり取りを楽しむ姿が見られます。どんな台詞がその場面に合うのか分からなくなり困っている友達を見ると、「～って言うといいんじゃない?」と意見を言ったり、友達が出てくるタイミングをよく見て、手拍子をして一緒にリズム打ちを楽しんだりするなど、なつめ組みんなで劇ごっこを創っていくことを楽しんでいます。(どうか、26日にたのしみ会ができますように…)



↓「木って触るとボコボコしているよね。」「じゃあ、ただ絵の具で色を塗るだけじゃダメだね。」と話し合いました。画用紙をいろいろな大きさに切って、本物の木の触った感触を表現することにしました。



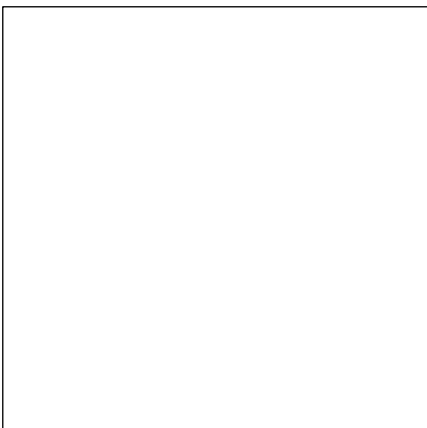
↑「トンネルくぐったら、どんなことがしたくなるかな?」という質問に、みんなで頭を寄せ合って考え中。「楽しいところがいいね。」「踊ったりすると面白いかも。」など自分なりに考えたことをみんなの前で話します。



↑自分たちで顔を描いた帽子をかぶると、気持ちまでその動物たちにへんしん! AさんとBさんは、トンネルをくぐったあとに、ライオンのように、爪を立てて威嚇するかのよう表現を楽しんでいます。どんな表現方法も子供たちなりの工夫が感じられます。



「ずっと真っすぐ立っているより、楽しそうな方(リズムに合わせて体を揺らす)がいい!」という子供たちの思いから、歌に合わせて振り付けを考えることになりました。すると、子供たちの方から、「ダンスが苦手な子もいるから…」と友達のことを思いやった言葉が出てきました。「ちょっとこんなのはどう?」と簡単な振り付けを考えて話してくれたCさん。「それいいね」と満場一致で振り付けが決まりました。ダンスが苦手な子も、「これならできる」と頷いてくれました。友達のことを思いやる素敵な心を感じられた場面でした。



「出来ないからやりたくない…」と雲梯に挑戦することに気が引けていたDさん。周りの友達に刺激され、さらに園長先生からの励ましをもらい挑戦するようになり、少しずつ進めるようになり“できた”が増えてきたことで自信をもち、自分から取り組むようになりました。何事にも挑戦していく力が、やり遂げていく姿につながりますね。